

中国産ジャーキーに起因すると思われる犬猫への健康被害

—FDAによる公表の概要(2014年5月16日発表)—

下記は、FDAのホームページに公表された内容の抜粋です。

詳細はFDAのホームページをご覧ください。

(<http://www.fda.gov/AnimalVeterinary/NewsEvents/CVMUpdates/ucm397713.htm>)

1. FDAは、ジャーキーによるペットの健康被害に関する調査を継続しているが、まだ原因の特定には至っていない。
2. 2014年5月1日までに、病気になった事例の報告(累計)数は4,800件以上であり、そのほとんどが中国産ジャーキー(チキン、アヒル、さつまいも)を食べたペットである。
病気の報告数は、犬が5,600頭以上、猫が24頭、人が3人であり、犬では1,000件以上の死亡が報告されている。
3. 症状の内訳は約60%が胃腸や肝臓の病気、約30%が腎臓や泌尿器の病気、残り10%は神経、皮膚、免疫症状等様々であった。
4. 犬26頭について、死亡後の解剖検査をした結果、13頭はジャーキーとの関連は見られなかったが、残り13頭はジャーキーとの関連が否定できなかった。11頭は腎臓病の兆候が、2頭には胃腸病の兆候が見られた。
5. 検査の結果、抗ウイルス剤のアマンタジンが含まれている中国産ジャーキーが見つかっている。アマンタジンは人用の抗ウイルス剤としてFDAが承認しており、これがペットの病気の原因であるとは考えていないが、ジャーキーに含まれるべき物質ではないため、中国政府に通知した。今後、アマンタジンやその他の抗ウイルス剤についての検査を実施する。
6. FDAは飼い主に対し、バランスの取れた食事のためにジャーキーは必須ではないことを呼びかけている。
また、ジャーキーを与える前と、ペットに症状が見られた時には獣医師に相談するよう奨励している。